

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜) 沖縄講座 HP http://www7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/

■ 2/11 安倍首相はトランプ米大統領と の初会談に臨んだ。会談で「普天間飛行 場の継続的な使用を回避するための唯一 の解決策」として辺野古新基地建設が改 めて「確認」され、共同声明に初めて明 記された。日米両国の首脳が会談するた びに「確認」の儀式を繰り返す。この直 前の 2/4 にも、翁長知事訪米要請行動の 間隙を縫うようにして来日したマティス 国防長官と「辺野古移設が唯一の解決策」 と「確認」したばかり。辺野古新基地建 設の作業の遅れに苛立ち、不安に苛まれ る安倍の姿が目に浮かぶようだ。■米側 は、安全保障面では辺野古新基地建設や 尖閣諸島への安保条約 5 条適用問題など 日本側の主張を受け入れた。実はこれま での米側の立場を再確認しただけなのだ が、そんなことより安倍が「日本は同盟 におけるより大きな役割および責任を果 たす」と事実上防衛費分担の増大を約束 していることは注意を要する。トランプ の防衛分担増強要求を追い風にして軍事 大国化に突き進もうという浅はかな野心 が透けて見える。そして経済面では米側 の要求(TPP に代わる二国間自由貿易協 定 FTA に向けた議論開始)を飲ませる、 トランプ流の「ディール(取引)外交」 と沖縄地元紙は指摘する。辺野古新基地

建設が、取引材料とされた形だ。しかし、 「辺野古の海は日米への貢ぎ物ではな い」(2/12 琉球新報社説)。■沖縄防衛局 は、年が明けるや辺野古沖の臨時立入り 制限区域を囲むように「海上フェンス」 の設置作業を始めた。これはフロートに 鉄の棒を取り付けてロープと網で結びつ けただけの、高波や強風でひっくり返り 絡み合って「障害物」として浮遊する危 険極まりないものだ。器物損壊と刑特法 でカヌー隊の抗議行動を威嚇し、封じ込 めようという狙いだ。報道各社に対して 臨時制限区域へ立ち入った場合の刑特法 の罰則規定「1年以下の懲役または2000 円以下の罰金もしくは科料に処される」 を示した警告文書をFAXで送りつけて いる。露骨な報道規制だ。2/6 日本最大級 の掘削調査船「ポセイドン1」が、228 個のコンクリートブロックを積載した 2 台の台船と共に辺野古沖に現れた。そし て7日、沖縄防衛局は、公有水面を管理 する沖縄県との事前協議を一方的に打ち 切りコンクリートブロックの投下を開始 した。ゲート前でも海上でも懸命の抗議 行動が続いている。現地座込み行動へ! ■辺野古·高江カンパは、2,158,070円 (2月21日現在)。 引続きカンパを!

郵振 00210-0-2021 沖縄連続講座

〈トラン7登場後の世界〉で考える一東アジアの中の沖縄/日本

4月22日(土)13時開場-17時まで

東アジアの戦後秩序は転換するのか?沖縄の自己決定権の行方は?朝鮮半島情勢は?-激動する東アジアの未来を考えるシンポジウム。

■出席:新垣毅(琉球新報東京支社)・康宗憲(アジア現代政治研究)・丸川

哲史(台湾・中国研究)・二木啓孝(ジャーナリスト・司会)

■会場:文京区民センター3A(都営三田線春日駅1分、JR 水道橋駅10分))

■主催: 〈4·28〉 シンポジウム実行委員会

地上波テレビに登場した沖縄ヘイト番組(東京以局)に抗議の輪広がる

沖縄の民意を顧みない安倍政権の強硬姿勢、軍 事植民地化政策が沖縄差別を助長し、増幅させて いる。昨年あたりから高江や辺野古の現場に、へ イトスピーチを撒き散らす集団が頻繁に登場する ようになった。大阪府警機動隊員の「シナ人」「土 人」という差別発言、それを擁護した大阪府知事、 「差別ではない」という「認識」を閣議決定まで した政府一これはわずか4ヶ月前のこと。そして とうとう地上波に、沖縄に対する事実無根のデマ、 差別と偏見に満ちた「ニュース番組」が登場した。 1/2、東京 MX テレビは、「沖縄の基地反対派は日 当で雇われている」「危険で住民もそばに近づけ ない」「県民のほとんどは基地に賛成」などという 事実無根のデマ、差別と偏見に満ちた「ニュース 女子」という番組を放映した。ネットにあふれる 「沖縄ヘイト」が、地上波で堂々と垂れ流された。 番組を制作した CS チャンネルの DHC シアターは 「反対派の意見を聞く必要はない」との「見解」 を公表した。東京 MX テレビも、番組の司会を担当 した長谷川幸洋・東京新聞副主幹もいまだに問題 の深刻さを認識することなく、居直っている。東 京新聞は編集主幹名の謝罪文を紙面に掲載した が、本人は「報道の自由の侵害だ」と嘯いている。 トランプ政権の排外主義的移民政策、差別政策は 批判的に取り上げるマスコミも、沖縄差別につい ては積極的に取り上げようとしない。事態を重く みた放送倫理・番組向上機構 BPO は、「ニュース女 子」の審議入りを決めた。



▲TOKYO MX 抗議行動。マイクは安次富浩さん(2/2)

沖縄へイトが蔓延する背景に、安倍政権の沖縄差別政策があることは明らかだ。例えば公安調査庁の報告書「2017年内外情勢の回顧と展望」も、ネトウョレベルのデマや中傷の寄せ集めで、沖縄敵視の言いがかりに満ちている。沖縄と中国の研究者同士の学術交流を「日本国内の分断を図る戦略的な狙いが潜んでいる」などと警告している。辺野古や高江の座り込み、米軍属女性暴行殺人事件への抗議や県民大会についても「車両の通行を繰り返し妨害し逮捕者を出すなどした」「全国から党員や活動家らを動員した」などと記している。このような偏見に満ちた言いがかりにも政権の姿勢が反映しているというべきだろう。

20 人の市民が始めた東京 MX テレビ局前の抗議行動は、回を追うごとに参加者が増えている。2/2 には沖縄から安次富浩さん(ヘリ基地反対協共同代表)も駆けつけ、200 名近くが抗議の声を上げた(写真)。

毎週木曜日 18 時半、東京 MX 抗議行動へ!

山城博治さんらの即時釈放を!

国策に抗(あらが)うものに、「法治国家」の建前もかなぐり捨てて、政府・国会・司法が「三権一体」(沖縄タイムス)となって牙を剥く。それが軍事植民地・沖縄に対する安倍政権のやり方だ。新基地建設に抵抗する市民を暴力的に排除し、特定人物に狙いを定めて何ヶ月も前の軽微な「事件」をデッチ上げ、事後逮捕する。辺野古・高江の抗議活動を理由に不当逮捕された山城博治沖縄平和運動センター議長ら3名が、未だに不当拘留されている。



私たちのものです。

特に山城さんは、かつて悪性リンパ腫を患い、今でも定期検診を必要とする身だ。にもかかわらず、接見禁止で家族との面会も差し入れも許されず、4ヶ月以上の不自由な拘留状態を強いられている。中心メンバーを闘争現場から引き離すという政治的意図に基づく長期拘留であり、法治国家の建前をもかなぐり捨てた独裁国家の権力者の常套手段だ。山城さんらの釈放を求める刑法研究者の緊急声明は、山城さんらの行為が「辺野古新基地建設断念とオスプレイ配備撤回の民意を表明する政治的表現行為として」行われたものであり「政治的表現の自由は最大限尊重されねばならない」と強調している。国際人権団体や海外の識者も即時釈放を求めるなど国際的問題にもなっている。沖縄で結成された「山城博治さんたちの早期釈放を求める会」では那覇地裁と那覇地方検察庁に釈放を求めるポストカード(4枚1セット300円)への協力を呼びかけている。また 2/24(金)午後3時から那覇市城岳公園で釈放を求める集会を開く。第1回公判がある3/17(金)には現地に呼応して新宿駅周辺でデモが準備されている。18時半新宿駅東口アルタ前へ!

訪沖レポート 1/15-19

右翼がテント前に・・上空はオスプレイが激しい訓練

1/15 - 19 に訪沖した。紙面の関係で 16 日と 18 日の辺野古の模様をレポートする (F)

1月16日(月)

朝から冷たい雨が降ったり止んだり、上下カッパ着用で完全防寒体制。きょうは早朝6時に新ゲートに約20人が集まり、海上作業をしている業者の進入監視抗議行動。1台だけ入ったが、抗議行動を警戒したのか後続車両は来ない。海上では突起のついた「新型フロート」を張り出す作業が土曜日から始まっている(1頁参照)。

7時に工事用ゲートに移動して約 30 人で座り込み集会。月曜日担当は統一連の瀬長事務局長。 県民会議現地闘争本部代表代行の安次富浩さん、沖縄平和市民連絡会城間事務局長、平和運動センター大城事務局長が挨拶。自治労九州地方本部の各県代表から発言が続く。歌やシュプレヒコール。9 時頃には島ぐるみ会議のメンバーが続々と集まり 50 人ほどになった。

正午前から大音響でヘイトスピーチを撒き散 らす集団がゲート前テントに押し掛けてきた。右 翼団体名の入った街盲車3台、マイクロバスほか 数台、「在日特権を許さない会」(在特会)の桜井 誠と日本第一党など 30 数人。テント前の歩道に コーンを並べて機動隊が間に割って入る。同時刻 に開催されていた那覇の裁判所前での集会への 参加者が多く、テントの中は30数人と少な目。 安次富さんほかスタッフ中心に、罵詈雑言、聞く に耐えないヘイトスピーチを受け流した。取材に 来ていた琉球新報、沖縄タイムス記者も攻撃され た。トイレ送迎車も運行できず、昼食もお預け。 「違法テントを撤去しろ」「県外の過激派だろ う」「中国から金もらっているだろう」「外国人 は沖縄から出て行け」等々、二時間半くらい自己 満足的にがなりたててから、立ち去った。彼らの 中では沖縄の反基地運動に対する憎悪ー沖縄へ イトが嫌韓・嫌中の差別・排外主義とつながって いる。安倍政権がそれを助長している。

午後3時ころ、うるさい右翼が去った後で、シ

ュワブのゲートの向こう、大浦湾方面に見事な虹がかかった。

1月18日(水)

きょうも朝から小雨が降ったり止んだり。7時過ぎから工事用ゲート前で座り込み集会。集中行動日で各地の島ぐるみ会議のバスが続々と到着、200名に迫る。昨日17日午前中に、今年初めて工事用ゲートが開き、座り込みを排除して工事用車両数台が進入したが、これだけ集まると、機動隊も手を出せない。集会進行は平和運動センター大城事務局長。安次富さんが挨拶。「16日午後に山城さんらの釈放を求める裁判所前集会に400名、17日に署名4000名弱(39826筆)を提出し一時間かけて裁判所に要請した。公判は早くて3月以降!異常な長期勾留は許せない。」

雨が降り続く中、各地の島ぐるみ会議の発言が続く。きょうは海も荒れていて、海上作業も中止。カヌー隊も引き上げた。ただ防衛局の警戒船はたくさん出ていた。途中から雨が激しくなり、新ゲートまでデモ行進してテントへ。テントで昼休み休憩していると、オスプレイが4機、辺野古沖の上空をキャンプハンセン方面に横切った。

2時半頃から雨の合間を見て新ゲートに移動、 海兵隊車両に狙いをつけて外出阻止行動。女性殺 害事件への怒りをぶつける。最初軍警備員が数人 出てきて警告、それでも動かないと見るや奥から 沖縄県警機動隊30名ほどが出てきてデモ隊を排 除する。これを何回も繰り返し。3時過ぎに行動 終了。帰りに運転しながら空を見上げるとオスプ レイ3機が編隊飛行。きょうは10機ほど見た。 激しい訓練が続いている。



高江一森が泣いている2」上映&現地報告会に100人参加!



1/27(金)に「高江ー森が泣いている2」上映&辺野古現地報告会を開催した。主催は沖縄講座。昨年10月上映した森の映画社作品の続編だが、午後の部と夜の部100人以上の参加があった。マスコミ記者が立ち入らない北部訓練場内部のリアルな映像が参加者に強い印象を残したようだ。アンケートでは報告会への激励の声も多かった。現地カンパが前回を上回る45,985円も寄せられた。

12/13の米海兵隊欠陥機MV22オスプレイ墜落事 故については前号で記したが、その後も驚くべき事 実が次々と明らかになっている。年明け後の動きを 現地の報道から追ってみる。

①1/6 原因究明も無く空中給油訓練も再開

米軍は事故から6日後に飛行訓練を再開したが、 沖縄県などの要請も無視して1/6からは空中給油訓 練も始めてしまった。防衛省は米軍の説明を「有効 な対策」と鵜呑みにした。元々欠陥機とされていた が、今回の墜落で空中給油の危険性がオスプレイの 機体構造に起因することが専門家から指摘されて いる。給油機のすぐ後ろを飛ぶと機体が後方乱気流 の影響を受けやすいこと、プロペラが給油管のすぐ 近くで回っているため少しの操縦ミスでも機体が 傾き接触事故を起こしやすいことだ。プロペラと給 油管が絡まる危険性は、事故機の乗員のものと思わ れる「緊急時対処チェックリスト(確認書)」の中 にも記されていた。事故機が空中給油訓練ではなく 夜間の暗視鏡を使用した超低空飛行訓練中だった こともわかった(2/17沖縄タイムス)。

年明け以降も、まるで墜落事故などなかったかの ように、高江でも辺野古でも、オスプレイの激しい 訓練が続いている。(右上記事 1/19 沖縄タイムス) ②3年前の落雷は駐機中ではなく飛行中の事故!

2014年6月に岩国から普天間に向かうオスプレイ が落雷を受け右プロペラ2枚の破損、複数の制御機 器にトラブルが発生する重大な事故があった。当時 米軍は落雷が「普天間に駐機中」と発表していた。 ところが実際は宮崎県の県立高校や小林市役所が ある市街地上空で落雷を受けていたことが、沖縄タ イムスの情報公開請求で入手した米軍海軍安全セ ンター調査報告書から明らかになった(1/21 沖縄 タイムス)。もし墜落していたら、想像するとぞっ とする。米軍の発表は信用できないということだ。



③米軍も初報は「墜落」(1/28 琉球新報)

事故現場の映像を見ただけで、何故これが「不時 着水」「不時着」で「墜落」ではないのか誰もが疑 問に感じる。現場を見ればわかるが、制御可能であ れば岩場を避けて近くの砂浜に「不時着」できたし、 そもそもキャンプシュワブも近い。しかし日米両政 府とも「不時着」と言い換えて「墜落」を認めよう としない。実は事故直後に米海兵隊が航空自衛隊に 出した第一報が「オスプレイが墜落した可能性があ る」だった。沖縄防衛局も名護市に対して出した第 一報は「墜落」だった。

④オスプレイ 60mで訓練、政府説明 150m

2012 年の普天間配備にあたって政府は日米合意 として「最低安全高度約 150m」と説明していた。 覚書の但し書きで「安全性確保のため下回る飛行を せざるを得ない場合もある」と抜け穴はあるが基本 は150mだ。ところが米海兵隊の「オスプレイ戦術 即応マニュアル」(09年8月)では「飛行最低高度 は60m」12年の配備に伴う米軍の環境レビューの 別表でも低空飛行のモデル高度を 60mと明記して いる (2/14 琉球新報)。航空法施行規則では最低安 全高度を、人口密集地では最も高い障害物から300 m、水上などでは150mと定めている。安全よりも 米軍の運用が優先されていると言わざるを得ない。

2/18 午後、在日米陸軍司令部・第一軍団前方司令部のある「キャンプ座間」周辺で基地返還、オスプレイ 撤去を求める集会とデモが行われ約 200 人が参加。主催は米陸軍第一軍団の移駐を歓迎しない会・バスス トップから基地ストップの会・県央共闘会議・神奈川平和運動センター。小田急線相武台前駅の公園で集 会を開いた後、キャンプ座間までデモ行進しアピールした。正門前では基地に向かってシュプレヒコール。 代表団がオスプレイ撤退・キャンプ座間返還を求める米軍あての要請書を提出した。

